

# 企業間データ流通のマネタイズモデル

高橋英二  (神戸製鋼所)

岩津賢  (三菱電機)

木下守克 (ケー・ティー・システム)

堀水修 (日立製作所)

佐藤健司 (オムロン)

松本俊子 (日立ソリューションズ)

池田英生  (神戸製鋼所)

岡田和久 (日本電気)

西村有子 (ケー・ティー・システム)

内田裕也 (日本ユニシス)

清野亮英 (アビームコンサルティング)

発表者: 岩津賢



ファシリテータ



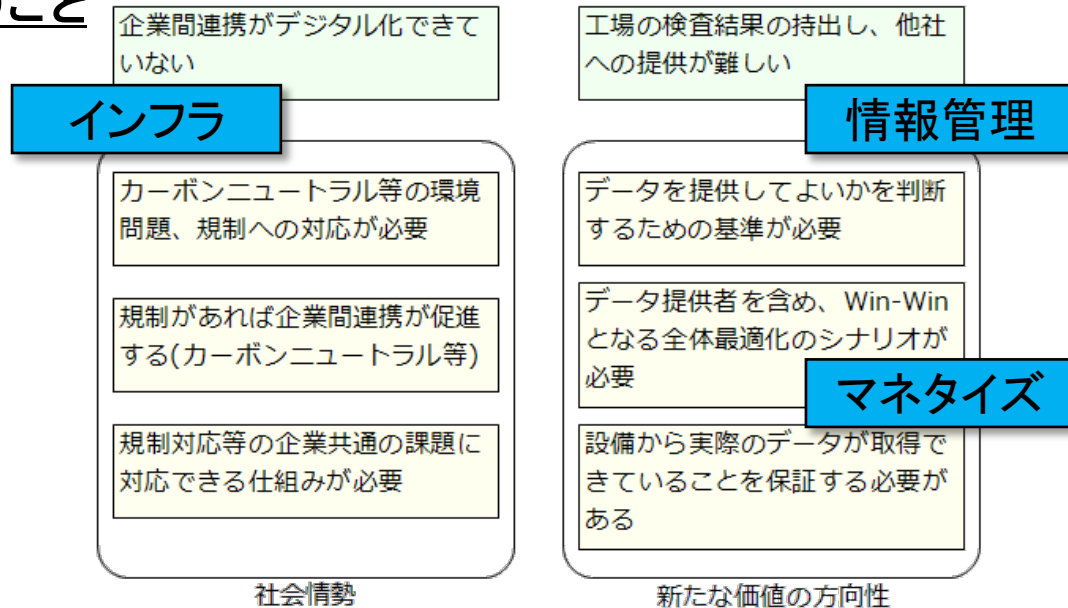
エディタ

## 背景/困りごと

### 背景

- 120以上の国/地域で「2050年カーボンニュートラル実現」の目標を掲げ、企業もこれを次の成長戦略と考える動き
- サプライチェーン全体でのカーボンニュートラル見える化を目指して取組むグローバル企業(米Apple、独BASF等)
- 気候変動への取組状況が資金供給判断材料の一つに(グリーンファイナンス)

### 困りごと



## 目指す姿

- 中小企業でもカーボンニュートラルへ対応可能な仕組みを作り、彼らの価値向上を訴求できる仕組みを構築する
  - 各社のCO<sub>2</sub>排出量の自由なデータ取引環境を構築
  - 特に最終製品メーカーにとって重要な「サプライチェーン全体でのカーボンニュートラルの取り組み、CO<sub>2</sub>削減に向けた継続的な改善サイクル」実現につなげる
- マネタイズにつなげられるようなモデルを構築する
  - ex.) データ流通プラットフォームとなり、流通手数料でマネタイズする等

## 対象とする工場や設備/部品

### 対象工場

- 鋳物部品サプライヤとしての鋳物工場の鋳物製造設備

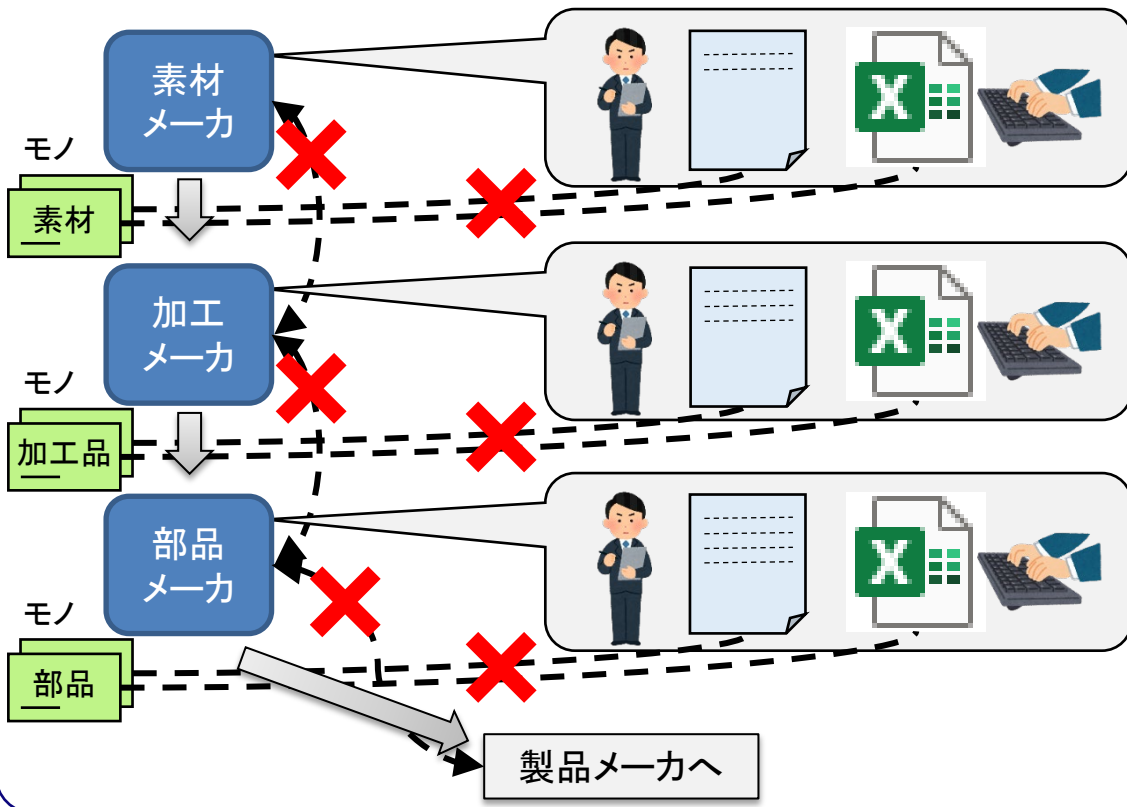
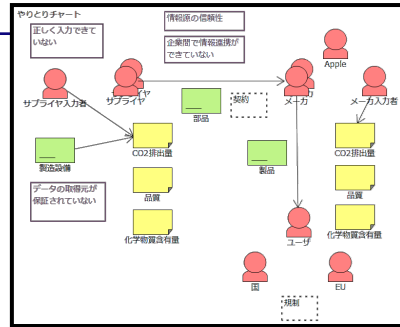
### 対象情報

- 製造工程とエネルギー供給源等のCO<sub>2</sub>排出量(鉄鋼業界の産業別CO<sub>2</sub>排出量は約4割を占める)



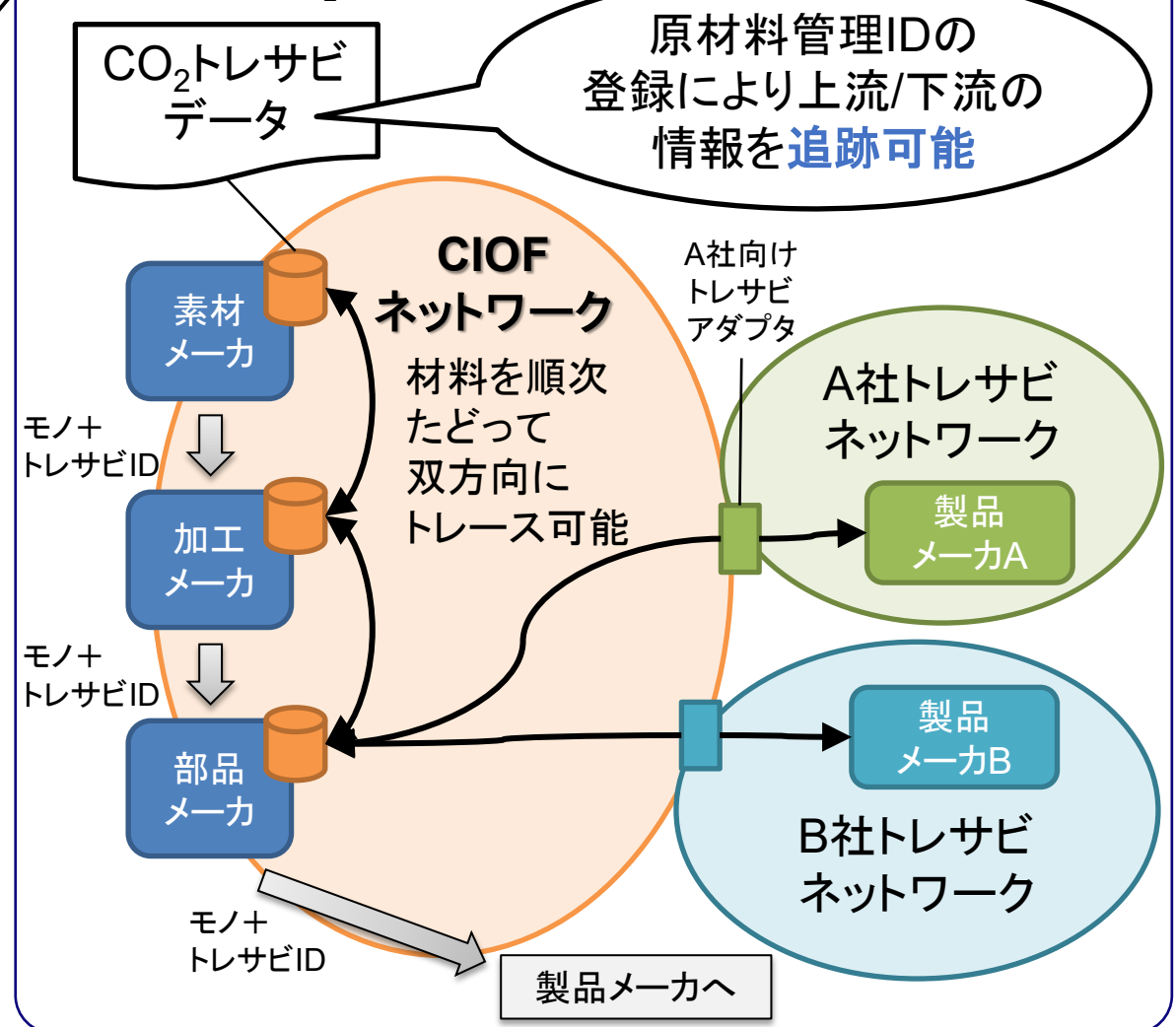
## AS-IS

- サプライチェーン間でモノの製造時のデータが寸断(手動で紐付け)
- 上流/下流の情報の追跡が困難



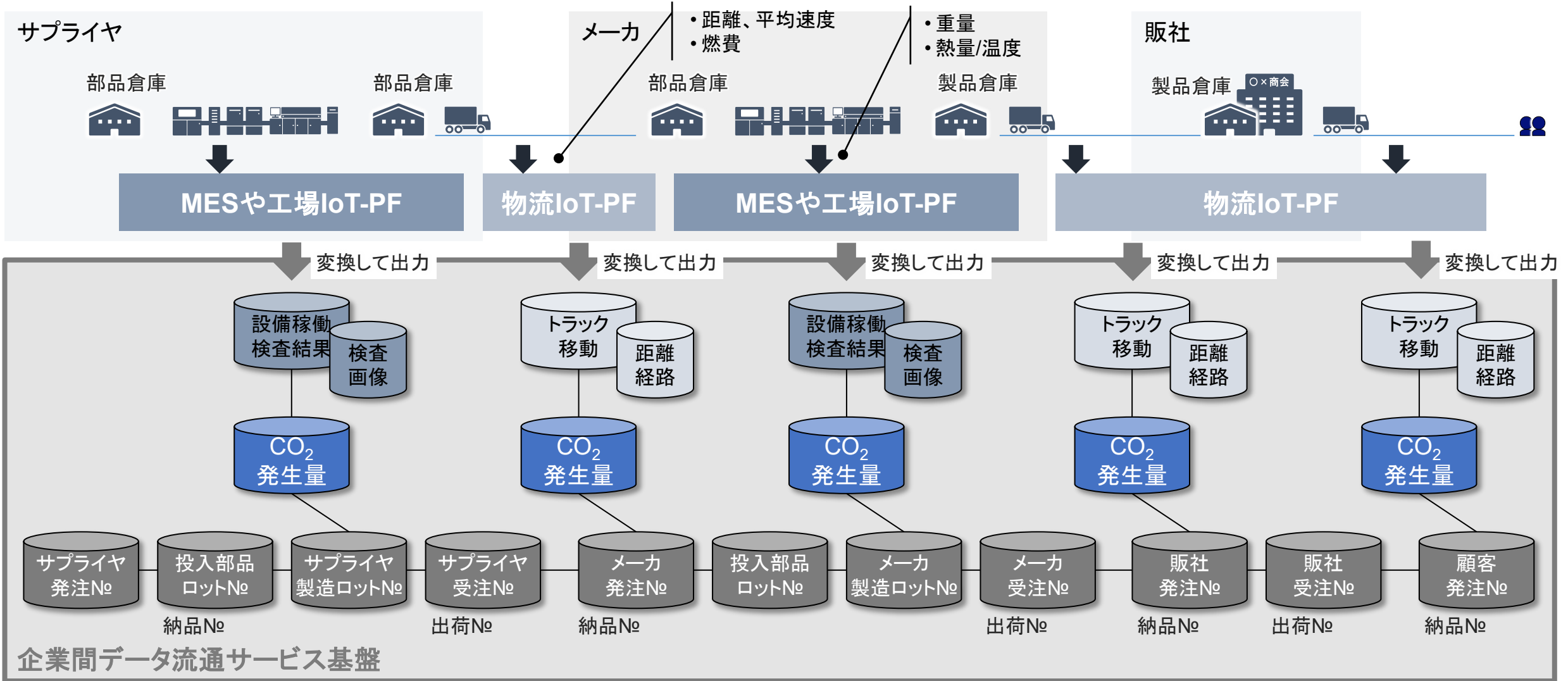
## TO-BE

CO<sub>2</sub>トレサビDBの例



# 企業間データ流通のイメージ

トレース機能に紐づけて、検査結果/設備稼働、CO<sub>2</sub>発生量を見える化



## 実装方針

- **CIOF**のデータ流通基盤を活用し、CO<sub>2</sub>排出量を定量的に可視化する

- 改善が必要な場所が即座に分かり、
- 改善シミュレーションの算出によって、改善の方向性が示唆できるようにする



## 実証実験の計画

### 実施内容

1. CIOFを活用したデータ流通基盤の構築
2. 適用先の具体的なデータを利用した実験
3. CO<sub>2</sub>総排出量の算出トレース

### 検証内容(想定)

- つながる可能性、トレーサビリティ
- 正確にリアルタイムに把握できること
- 改善ポイントが可視化できて最適化できること
- 改善効果が算出できること

中小企業へのESG投資の判断材料にも

高く買ってくれそうなところを選ぶ機能があるのも面白い

## ソリューションの概要(展望)

- 可視化できたことによる価値向上の方向性:
  - 中小企業/最終製品メーカー/他のプレイヤーの価値向上メリット
- 現時点で想定される課題(実証の中で対応方向も検討):
  - 標準化: 計算方法、プロセス別原単位、計算の単位
  - データの信頼性、認証: 記録された数値が人為的に操作されていないことの証明(トラスト基盤)
- マネタイズに向けたビジネスモデル:
  - プレイヤとルールメーカー: 中小企業、最終製品メーカー、金融、投資家、政府
  - マネタイズする人の立場(=プラットフォームのオーナー): 最終製品企業、業界団体、プラットフォーム、Sler
  - 何でマネタイズ?(GAFAは何で儲けるだろうか?):
    - データ流通手数料
    - 取引(データ、CO<sub>2</sub>排出量=カーボンクレジット、ESG投資と絡めた金融商品)の中間マージン
    - 公平性を意識したプレイヤー各社の格付けフィー(S&P的な)
    - メーカーや中小企業に対するCO<sub>2</sub>削減方向分析代行(AI提供など)
    - 改善支援に対するフィー etc.

サプライヤ、メーカー、プラットフォームの三方良しを目指す

# 実証シナリオ案

## シナリオ概要

目的: CO<sub>2</sub>削減に向けた継続的な改善サイクルに役立つ見える化の仕組みの構築手法の検討

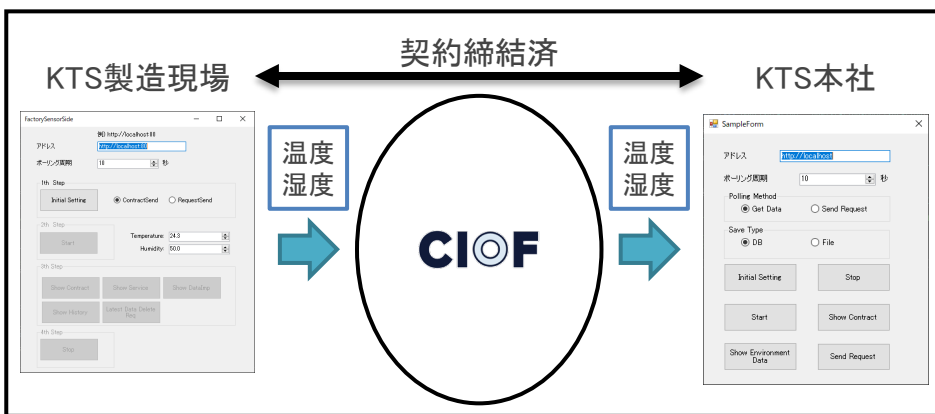
実施内容:

CIOF活用での工程間CO<sub>2</sub>排出量データの連携

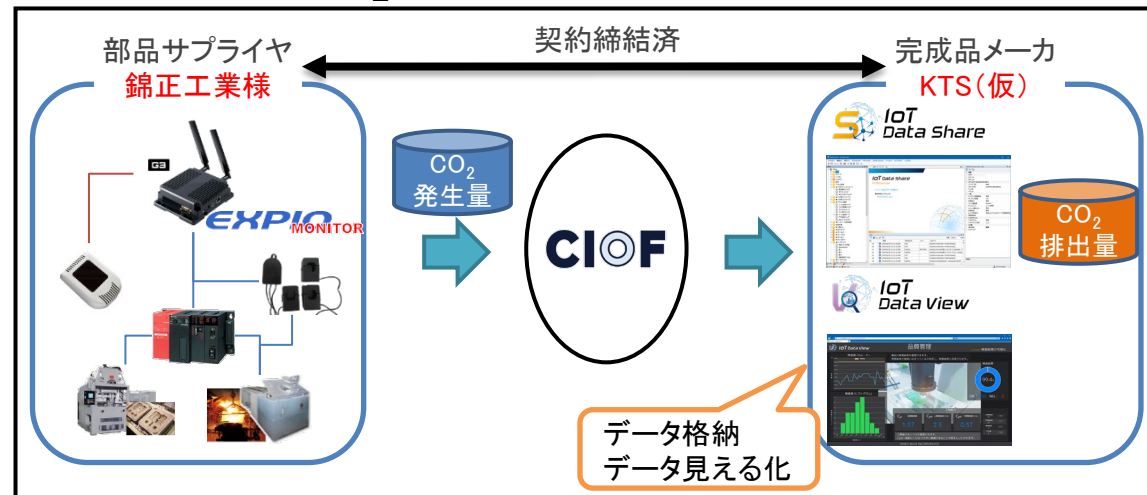
- モノと紐付けたCO<sub>2</sub>排出量の登録
- CO<sub>2</sub>排出量データの確からしさの担保
- 原材料メーカーのCO<sub>2</sub>排出量のトレース
- 参照範囲のプロファイルによる限定
- 異なるトレサビネットワークへの接続切替えの実現
- CO<sub>2</sub>排出量の契約条件への反映(マネタイズ)



事前準備:  
WG用  
CIOF  
接続検証  
(9月完了)



## 実証実験①: CO<sub>2</sub>排出量を含むデータをCIOFで取得



## 実証実験②: 連携企業追加時の拡張対応

